

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500089
法人名	社会福祉法人 キングスガーデン宮城
事業所名	グループホーム階上ブランチ
所在地	宮城県仙仙沼市長磯船原66
自己評価作成日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成27年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居者、一人一人のニーズに合わせた工夫、生活歴を大切に信頼関係の構築を目指しています。
 ○近隣に田園、海があり、散歩や気軽なドライブができる環境がある。
 ○道路向かいにコンビニエンスストアがあり、利用者が買い物できる環境がある。
 ○地域の自治会や小学校から、学校行事のお誘いや防災訓練の参加、お祭りへの参加等があり、支えて頂き交流を深めている。
 ○隣接のデイサービスとの交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で事業所独自の理念「地域に根付いた暮らしの中で、楽しく自分らしく、やさしさ、やすらぎを持って」を作り、ケアサービスに活かしている。天気の良い日は近くの海岸まで散歩し、大島を眺めながら出会う人と挨拶を交わしている。お茶飲み会や流しそうめんでは地域の人を招待し賑やかに交流をした。入居者と職員が一緒になって吹き流しを作り、小学校の校庭に飾り地域の人に喜ばれた。同じ法人の訪問看護師が週に1度ホームに来てバイタルをとり、アドバイスをするなど、健康管理に努めている。学童保育の子供たちが帰りに寄って遊んでいくホームであり、笑顔の絶えないホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 階上ランチ)「ユニット名」

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、運営規定を職員、入居者、来客者等にも見える位置に貼り出している。 また、会議及びミーティングにて、事業理念を生かしたケアについて話し合っている。	独自の理念「地域に根付いた暮らしの中で、楽しく自分らしく、やさしさ、やすらぎを持って」は、11月に職員全員で作った。日々の生活の中で自然と笑いが出た時に理念がサービスに活かされている事を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事への参加や近隣店舗への入居者との買い物、地域内の散歩等地域への密着を試みており、徐々に顔なじみの関係になってきている。	天気の良い日は近くの海岸まで散歩し、挨拶を交わしている。近くの方が新聞紙を敷いたゴミ袋を持って来てくれる。運営推進会議の後、お茶飲み会や流しそうめん地域の人を招待して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流会を開催し、入居者とのふれあいを通じて認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ペースで開催し、報告や話し合いは行っているが、サービスの向上につながっていないように感じている。今後の課題である。	会議は年6回開催され、包括の職員がその都度参加している。「合同避難訓練の際の地域との連携」や「夜間帯の職員の増員」などの意見が出ている。サービス向上とのつながりについては、次期の目標達成計画とした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は、現状運営推進会議での入居者の状況や行事等の報告、市からの連絡等のやりとりのみになっている。更なる密な連携が必要と感じている。	現在、運営推進会議や指導監査などで来て頂いたり、市主催の勉強会にも積極的に参加している。ホームのレクリエーションに参加要請をしているが、曜日の関係で参加が出来ないので変更を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修会の資料などで、拘束の理解を深めている。会議や日々の業務のなかで、職員同士で話し合っている。現状身体拘束に該当する行為は見受けられない。	部内、外研修を通じ、職員は身体拘束によって入居者が受ける弊害について理解している。「家に帰りたい」とか「畑仕事をしなければならぬ」とか話す人には、見守りや声掛けで対応し、外出した時には一緒について行って、適宜声を掛け帰るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや研修会の報告、入居者、職員間でのコミュニケーションの中で虐待が起きぬように十分に防止に努めてケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、学ぶ機会には持っていないが、必要性は感じており、研修会等があれば、積極的に参加していきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の実態調査時、契約の締結時に利用者及び家族に十分な聞き取りや説明を行い、不安なく入居できるよう心掛けている。改定時は、必ず文書を用い説明している。解約についても説明し、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情及び相談窓口を明記している。また、家族が発言しやすいように相談や報告を密に行い、個別に機会を設けているが、直接運営に関する発言は現状利用者及び家族からは聞かれていない。	相談窓口意見、要望はない。面会に来た時に聞いている。年度初めに「意見交換会」や「これからどのように過ごしていきたいか」などを聞いている。骨粗鬆症の人に「なるべく日光浴をさせて」などの意見があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング月1回、意見交換を定期的に行っている。互いに意見や提案を遠慮なく言っていると見受けられるが、時々一部の人間の発言が多くなり、他は黙っていることがある。全員がまんべんなく発言できるよう工夫が必要と感じている。	職員全員がまんべんなく発言出来るよう工夫が必要と感じている事については改善されている。リビングに季節の飾り物を皆で作ろうとの意見があり、入居者と一緒に桜の花びらの切り絵を壁に貼り付け春の装いにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員との会話を密にし、勤務状況の把握や職員のやりがいや働きがい、職員間の連携等職場環境のの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者一人一人に合ったケアや職員の技術に差が出ないようケアの統一できるように、その都度対応をしている。法人内研修や官主催の研修に常に職員の参加を促し、職員もそれに答え、業務に反映させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流等は行えている。他の事業所間でのネットワーク作りは今後の課題である。(情報はあがるが行えていない。)		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中からでも不安や要望を解消が出来るように対応をしている。「相手を知る」「私たちを知ってもらう」ことで、信頼関係を構築を目指している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活状況や生活歴などを家族から聞き取り、また、入所に対しての不安が解消できるように時間をかけて説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最低限の、介護保険の情報を提供している。また、ケアマネや市などの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに支えあい、協力しあえるよう工夫をしている。また、人生の先輩方とし、様々な教えも頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に時間をいただき、生活状況の報告をしている。また、電話でも同様に行い、アドバイスも頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	混乱が最低限になるよう工夫をし、ドライブや買い物をしている。が、馴染みの場所が少なくなっている。	親類や友人など本人が分らなくなる人もいるので、家族の協力を得て間に入ることもある。甥が経営しているレストランにみんなで食べに行ったり、馴染みの美容室に連れて行くなど関係が途切れないよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に意識をし、対応をしている。職員が間に入り、係わりを作り、その状況をみて工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に、状態の変化や、死去されたなど、家族より連絡等頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、表情や行動から工夫を対応に努めている。	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。トイレに行きたいときに立ち上がったたりするので、声を掛けると「トイレどごだべ」と聞いてくる。「はっとや割れ煎餅を食べたい」などの話があり対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時調査で、生活歴や生活状況を家族、本人より聞き、状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での見守りや利用者に対する職員間の話し合い、記録等で本人の持っている能力を見出し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常からの会話から、思いを汲み取り必要なニーズの把握に努めている。また、ミーティングなどで話された課題や対応をケアプランに反映させている。	3カ月に1回評価し、定期的に見直しをする。ミーティングの時、現状と方向性について話し合い、状態に変化のある入居者は見直しをしている。骨粗鬆症の人には日光浴を勧める等ケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、排泄・水分・睡眠等の記入をしている。日々の変化等を見逃さぬよう、情報の共有化に努めている。話し合いが必要な際、随時場を設定している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに柔軟に対応ができるようにその人の考え方や現状を確認しながら、本人に合わせられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニやスーパーへの買い物、地域への参加ができるよう支援している。ボランティアの導入により、「楽しむ工夫」を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医の継続や、本人の負担がないよう、協力医に変更するなど、家族との協議の上決定している。受診は基本家族対応としているが、緊急や都合が取れない等のときは施設の対応としている。	診察が必要な入居者には職員が同行し、受診結果は家族へ報告している。インフルエンザや風邪の予防接種は協力医にお願いしている。同じ法人の看護師が週に1度来てバイタルをとりアドバイスをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの訪問により、日々の報告や助言をもらい健康管理の観察に努めている。また、隣接デイサービスの看護師より、随時状況の確認や相談も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の生活状況や身体状況を病院側に情報提供していると共に、退院時は情報の聞き取りを行っている。定期的に訪問をし情報の収集をし、本人が安心して治療が行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に聞き取りを行っている。「まだ、考えられない」「先の事」と思っている方がほとんどであるが、家族間での話をしてもらるようになっている。また、施設側での「出きる事・出来ない事」の説明をし期間を見て聞き取りを行う方向である。	看取りの経験はない。「重度化した場合における対応に関する指針」があり、出来るだけ早い段階から本人や家族に事業所で出来る事出来ないことを説明し、方針を共有している。状況の変化に応じてその都度関係者で話し合い段階を踏んで合意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間や家族でも話を行っているが、実際に起きた場合、冷静に対応ができるか。時間帯によって不安面の要素が異なるため、今後の想定とした訓練が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や経路はマニュアルとし、見える場所に貼り出している。 地域の防災訓練への参加、施設主催の防災訓練をしている。また、施設の近くに住む職員、家族の協力もいただいている。	避難訓練（夜間想定を含む）は年3回実施し、運営推進会議のメンバー6名が参加している。近所の人にも協力をお願いしている。居室内の「確認した」と言う目印をわかるようにしてはどうかなどの指摘を受けている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや、対応は十分に注意している。	一人ひとりへの声掛けは、自尊心を傷つけないように気を付けて、語尾をやさしくゆっくり話すようにしている。失禁や失敗をした時は、周りに気付かれないようにゆっくり「気持ち悪くない？」と声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫や意思表示ができるように、また、自らが決定出来るように工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の状況を見て、柔軟に対応できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日課として、身だしなみを整えられるように声掛けや手伝いをしている。行事や特別な時など、化粧などをしている。男性は髭剃りを促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を一緒に行える工夫をしている。食事の工夫も、好みに合わせたり、季節の食材を使い、野菜切りや魚をおろしてもらったりと、食事作りから参加していただいている。	法人の栄養士が立てた献立を参考に職員がたてる。食事の準備や後片付けも一緒に行っている。誕生日に刺身を希望する方が多く、昔漁師をしていた方が魚をさばいてくれる。行楽弁当を持ってモーランドへ行く事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をつけ、その時に合った対応をしている。極端に少ない場合でも、少量でも細目に補給を行い、補助食品等の利用もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に、朝、夜と行っており、必要に応じてその都度行っている。本人が自立で歯磨きするよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録チェック表を使い状態の把握や情報の共有をしている。サインを見逃さないよう配慮し、出来るだけトイレでの排泄が行えるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを掴んでケアしている。薬の副作用で失敗していた方が適切な個別誘導で現在はトイレで出来るようになった。夜間は自分で起きてくる方が多く、声掛けはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散策等の体を動かす支援、食事に繊維物や牛乳、ヨーグルトなどを提供するなど努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を行う為の安全性を優先にするために、職員本位になってしまっているところがある。出来るだけ、ゆっくりと、安全に対応を行っている。また、体調や本人の状況で拒否があった場合は、本人の気持ちを優先している。	入浴中の転倒を防ぐため入居者の身体を強く抑える事があるが、安全性を考えての事である。職員と一緒に歌を唄ったり、世間話をしながら入浴を楽しんでいる。入浴剤や菖蒲湯にして入浴を楽しんでいる人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を尊重し、本人のリズムで生活できるよう支援をしている。傾眠していたり、眠そうにしている時は、休むよう声掛けをするが、本人の意思や判断を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報についてはミーティングや申し送り等で職員の意識共有をはかり、利用者の服薬変更があった場合、日誌に記録や掲示板に貼り出し情報共有に努めている。薬による状態の変化の観察も行えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人を理解し、生活の中で、「楽しみ」が見出せるように工夫をして、役割や趣味が持てるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や戸外での散策は常時行っている。買い物や行事も定期的に行い、利用者の希望による個別の買い物や外出にも柔軟に対応している。	天気の良い日は近くのコンビニや海岸まで散歩している。神山川の土手や気仙沼小、市民会館への花見、モーランドや安波山の新緑、岩井崎や大谷海岸へのドライブにみんなで出掛けしている。家族との外出や墓参りなど特別な外出支援には柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で行っているが、少額を自己管理をしている入居者もある。買い物の際はお金を渡して買ってもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号を覚えており、電話をしたい希望があれば支援をしているが大半は難しい。もちろん家族等と直接連絡を取りたいとの訴えがあれば、仲介し支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節を象徴する飾りなどを配置し、季節感を演出している。共有空間はシンプルにわかりやすいように配慮している。常に清潔を心がけている。	食堂兼リビングの天窓からは日差しが入り明るく、臭気や空気の澁みがない。入居者の皆さんは賑やかにおしゃべりをしている。適切な大きさのカレンダーや時計が見やすい場所に設置され、壁には切り絵の桜の花が飾られ季節を感じることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのほか、ソファの設置や、畳のある小上がりには炬燵を配置し、利用者がくつろげる空間の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人の生活歴や嗜好を聞き、家族、本人と相談し、入居時に馴染みのものや使っているものを持ってきたり、以前と変わらなく過ごせるよう心掛けている。	家族には馴染みの物を持ってきて頂くように働きかけている。居室には思い出のタンスやイス、ぬいぐるみなどを持ち込み、壁にはつるし雛や家族との笑顔の写真が飾られ、居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全が保てるように十分配慮をしている。視覚から分かるように表示など工夫をしている。		